

柔道整復学科(2年生)

専門課程(医療分野)

教育課程及び授業時数										
区 分		科 目		規定 単位	計 画 単位(時間)	1学年 単位(時間)	2学年 単位(時間)	3学年 単位(時間)	実務	
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活	医 療 心 理 学		14	2 (30)	2 (30)				
		情 報 科 学 概 論			2 (30)	2 (30)				
		医 療 英 語			4 (60)	4 (60)				
		保 健 体 育			2 (60)	2 (60)				
		経 営 学 概 論			4 (60)	4 (60)				
	小 計			14	14 (240)	14 (240)				
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	解 剖 学	I	15	4 (60)	4 (60)			○	
			II		4 (60)	4 (60)				
			III		4 (60)	4 (60)				
		生 理 学 * Ⅰ	I		4 (60)		4 (60)			
			II		4 (60)		4 (60)			
		運 動 学	I		4 (60)	4 (60)			○	
			II		2 (30)		2 (30)			
	疾 病 と 障 害	病 理 学		11	2 (60)		2 (60)			
		一 般 臨 床 医 学			2 (60)		2 (60)			
		外 科 学 概 論			2 (60)		2 (60)			
		整 形 外 科 学			1 (30)			1 (30)		
		リハビリテーション医学			2 (60)		2 (60)			
		衛生学・公衆衛生学			2 (60)	2 (60)				
	柔 道 整 復 術 の 適 応			2	2 (30)			2 (30)		
	保 健 医 療 福 祉 と 柔 道 整 復 の 理 念	関 係 法 規 * 2		8	6 (90)			6 (90)	○	
		保 健 医 療 * 3			1 (15)			1 (15)	○	
柔道		I	2 (60)		2 (60)			○		
		II	2 (60)			2 (60)			○	
社 会 保 障 制 度			1	1 (15)			1 (15)			
小 計			37	51 (990)	20 (360)	20 (450)	11 (180)			
専門 分野	基礎柔道整復学	柔道整復学総論	I * 4	10	6 (180)	6 (180)			○	
			II		4 (120)			4 (120)	○	
	臨床柔道整復学 * 5	臨床柔道整復学	I	17	4 (120)		4 (120)		○	
			II		2 (60)		2 (60)		○	
			III		2 (60)		2 (60)		○	
			IV		12 (360)			12 (360)		
	柔 道 整 復 実 技	包 帯 実 技		17	3 (90)	3 (90)			○	
		柔道整復実技	I * 6		2 (60)	2 (60)			○	
			II		4 (120)	4 (120)			○	
			III		4 (120)		4 (120)		○	
		柔道整復臨床実技 * 7			4 (120)			4 (120)	○	
臨 床 実 習			4	4 (180)		3 (135)	1 (45)	○		
小 計			48	51 (1590)	15 (450)	15 (495)	21 (645)			
合 計			99	116 (2820)	49 (1050)	35 (945)	32 (825)			

- *1 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化を含む
- *2 職業倫理を含む
- *3 医学史を含む
- *4 外傷の保存療法の経過及び治癒の判定を含む
- *5 物理療法機器等の取扱い・柔道整復術の適応の臨床的判断(医用画像の理解を含む)を含む
- *6 臨床前試験を含む
- *7 高齢者・競技者の外傷予防技術を含む

【指定規則に定める授業科目以外の履修科目】

【指定規則に定める授業科目以外の履修科目】							
分野・区分	科目	規定 単位	計 画 単位(時間)	1学年 単位(時間)	2学年 単位(時間)	3学年 単位(時間)	
メディカルトレーナー	メディカルトレーナー概論	—	1 (15)	1 (15)			
	メディカルトレーナー実技						
ハ イ ボ ル テ ー ジ 療 法			1 (15)	1 (15)			
キ ネ シ オ テ ー ピ ン グ 技 法			1 (15)	1 (15)			
フィジカルトレーナー	フィジカルトレーナー概論		1 (15)	1 (15)			
	フィジカルトレーナー実技						
アロマセラピー	アロマセラピー概論		2 (30)	2 (30)			
	アロマセラピー実技						
小 計			6 (90)	6 (90)			

科目名： 生理学Ⅰ（前期）

授業形態：講義

担当教員：横山 幸三
4単位

【授業概要】 生体の植物的・動物的各機能を学び、からだ全体のしくみを理解する。

【到達目標】 生体の各器官の働きとからだ全体のしくみの知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	1章 生理学の基礎①	横山
2	1章 生理学の基礎②	横山
3	2章 血液の生理学①	横山
4	2章 血液の生理学②	横山
5	2章 血液の生理学③	横山
6	2章 血液の生理学④	横山
7	12章 体液の生理学①	横山
8	12章 体液の生理学②	横山
9	3章 循環の生理学①	横山
10	3章 循環の生理学②	横山
11	3章 循環の生理学③	横山
12	3章 循環の生理学④	横山
13	4章 呼吸の生理学①	横山
14	4章 呼吸の生理学②	横山
15	4章 呼吸の生理学③	横山
16	4章 呼吸の生理学④	横山
17	5章 消化と吸収①	横山
18	5章 消化と吸収②	横山
19	5章 消化と吸収③	横山
20	5章 消化と吸収④	横山
21	6章 栄養と代謝①	横山
22	6章 栄養と代謝②	横山
23	8章 尿の生成と排泄①	横山
24	8章 尿の生成と排泄②	横山
25	8章 尿の生成と排泄③	横山
26	8章 尿の生成と排泄④	横山
27	9章 内分泌系の機能①	横山
28	9章 内分泌系の機能②	横山
29	9章 内分泌系の機能③	横山
30	9章 内分泌系の機能④	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「生理学」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 生理学Ⅱ（後期）

授業形態：講義

担当教員：横山 幸三
4単位

【授業概要】 生体の植物的・動物的各機能を学び、からだ全体のしくみを理解する。

【到達目標】 生体の各器官の働きと加齢、スポーツが身体に及ぼす変化の知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	11章 骨の生理学①	横山
2	11章 骨の生理学②	横山
3	10章 生殖①	横山
4	10章 生殖②	横山
5	7章 体温とその調節①	横山
6	7章 体温とその調節②	横山
7	15章 筋肉の機能①	横山
8	15章 筋肉の機能②	横山
9	13章 神経の基本的機能①	横山
10	13章 神経の基本的機能②	横山
11	13章 神経の基本的機能③	横山
12	13章 神経の基本的機能④	横山
13	14章 神経系の機能①	横山
14	14章 神経系の機能②	横山
15	14章 神経系の機能③	横山
16	14章 神経系の機能④	横山
17	14章 神経系の機能⑤	横山
18	14章 神経系の機能⑥	横山
19	16章 感覚の生理学①	横山
20	16章 感覚の生理学②	横山
21	16章 感覚の生理学③	横山
22	16章 感覚の生理学④	横山
23	高齢者の生理学的特徴・変化①	横山
24	高齢者の生理学的特徴・変化②	横山
25	高齢者の生理学的特徴・変化③	横山
26	競技者の生理学的特徴・変化①	横山
27	競技者の生理学的特徴・変化②	横山
28	競技者の生理学的特徴・変化③	横山
29	まとめ	横山
30	質疑応答・演習問題解説	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「生理学」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 運動学Ⅱ（後期）

授業形態：講義

担当教員：横山 幸三
2単位

【授業概要】 正常なからだの運動を運動力学的・運動学的に分析し、運動のしくみを理解する。

【到達目標】 各運動器官の構造と機能を学び、姿勢維持や歩行および、運動の発達と学習のしくみの知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	1章 運動学の目的 2章 運動の表し方	横山
2	3章 身体運動と力学	横山
3	4章 運動器の構造と機能①	横山
4	4章 運動器の構造と機能②	横山
5	5章 神経の構造と機能	横山
6	6章 運動感覚	横山
7	7章 反射と随意運動①	横山
8	7章 反射と随意運動②	横山
9	9章 姿勢	横山
10	10章 歩行①	横山
11	10章 歩行②	横山
12	11章 運動発達	横山
13	12章 運動学習	横山
14	後期まとめ	横山
15	質疑応答・演習問題解説	横山
16	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「運動学」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 病理学(前期)

授業形態：講義・演習

担当教員：山崎 要一
通年2単位

【授業概要】 病理学概論の教科書を中心に関連事項を付加した講義を行う。学生の国家試験合格を目指す。

【到達目標】 臨床上役に立つ知識を身につける。

【授業の進め方】 ※毎回小テストを実施します

回数	授 業 内 容	担当教員
1	第一章 病理学の意義	山崎
2	第二章 疾病の一般	山崎
3	第十章 病因Ⅰ	山崎
4	第十章 病因Ⅱ	山崎
5	第十章 病因Ⅲ	山崎
6	第十章 病因Ⅳ	山崎
7	第三章 退行性病変Ⅰ	山崎
8	第三章 退行性病変Ⅱ	山崎
9	第三章 退行性病変Ⅲ	山崎
10	第四章 循環障害Ⅰ	山崎
11	第四章 循環障害Ⅱ	山崎
12	第四章 循環障害Ⅲ	山崎
13	第五章 進行性病変Ⅰ	山崎
14	第五章 進行性病変Ⅱ	山崎
15	前期講義内容の総復習	山崎
16	定期試験	山崎

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「病理学概論(第3版)」(医歯薬出版)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 病理学(後期)

授業形態：講義・演習

担当教員：山崎 要一

【授業概要】 病理学概論の教科書を中心に関連事項を付加した講義を行う。学生の国家試験合格を目指す。

【到達目標】 臨床上役に立つ知識を身につける。

【授業の進め方】 ※毎回小テストを実施します

回数	授 業 内 容	担当教員
1	第六章 炎症Ⅰ	山崎
2	第六章 炎症Ⅱ	山崎
3	第七章 アレルギーⅠ	山崎
4	第七章 アレルギーⅡ	山崎
5	第七章 アレルギーⅢ	山崎
6	第八章 腫瘍Ⅰ	山崎
7	第八章 腫瘍Ⅱ	山崎
8	第八章 腫瘍Ⅲ	山崎
9	第八章 腫瘍Ⅳ	山崎
10	第八章 腫瘍Ⅴ	山崎
11	第八章 腫瘍Ⅵ	山崎
12	第九章 先天性異常Ⅰ	山崎
13	第九章 先天性異常Ⅱ	山崎
14	第九章 先天性異常Ⅲ	山崎
15	後期講義内容の総復習	山崎
16	定期試験	山崎

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「病理学概論(第3版)」(医歯薬出版)

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 一般臨床医学（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 吉山 武
通年2単位

【授業概要】 医療全般に必要な基本的知識の講義。

【到達目標】 一般的疾患の広範囲、基本的な内容の理解。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	診察概論、診察各論（視診）	吉山
2	診察各論（視診、打診、聴診）	吉山
3	診察各論（触診）	吉山
4	診察各論（生命徴候）	吉山
5	診察各論（知覚検査、反射検査）	吉山
6	診察各論（代表的な臨床症状①）	吉山
7	診察各論（代表的な臨床症状②）	吉山
8	検査法	吉山
9	主要な疾患（呼吸器①）	吉山
10	主要な疾患（呼吸器②）	吉山
11	まとめ（小テスト）	吉山
12	主要な疾患（循環器①）	吉山
13	主要な疾患（循環器②）	吉山
14	主要な疾患（循環器③）	吉山
15	前期総括	吉山
16	定期試験	吉山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「一般臨床医学」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 一般臨床医学（後期）

授業形態： 講義

担当教員： 吉山 武

【授業概要】 临床上大切な症状所見、疾患等の講義。

【到達目標】 一般的疾患の広範囲、基本的な内容の理解。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	主要な疾患（肝、胆、脾疾患①）	吉山
2	主要な疾患（肝、胆、脾疾患②）	吉山
3	主要な疾患（代謝、栄養疾患）	吉山
4	主要な疾患（内分泌疾患①）	吉山
5	主要な疾患（内分泌疾患②）	吉山
6	主要な疾患（血液、造血器疾患①）	吉山
7	主要な疾患（血液、造血器疾患②）	吉山
8	主要な疾患（腎、尿路疾患①）	吉山
9	主要な疾患（神経疾患①）	吉山
10	主要な疾患（神経疾患②）	吉山
11	主要な疾患（感染症、性病）	吉山
12	主要な疾患（リウマチ性、アレルギー性疾患）	吉山
13	主要な疾患（環境要因による疾患）	吉山
14	まとめ（小テスト）	吉山
15	後期総括	吉山
16	定期試験	吉山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「一般臨床医学」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 外科学概論（前期）

授業形態：講義

担当教員：二宮 宏二
通年2単位

【授業概要】 外科学概論の総論を学ぶ。

【到達目標】 外科学概論の理念を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	総論：外科学とは	二宮
2	総論：損傷	二宮
3	総論：炎症	二宮
4	総論：外科感染症	二宮
5	総論：腫瘍	二宮
6	総論：ショック	二宮
7	総論：輸血と輸液	二宮
8	総論：消毒と滅菌	二宮
9	総論：手術	二宮
10	総論：麻酔	二宮
11	総論：移植	二宮
12	総論：免疫	二宮
13	総論：出血と止血	二宮
14	総論：心肺蘇生法	二宮
15	総論：まとめ	二宮
16	定期試験	二宮

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「外科学概論」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 外科学概論（後期）

授業形態：講義

担当教員：二宮 宏二

【授業概要】 外科学概論の各論を学ぶ。

【到達目標】 外科学概論の実際を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	各論：脳神経外科疾患①	二宮
2	各論：脳神経外科疾患②	二宮
3	各論：脳神経外科疾患③	二宮
4	各論：甲状腺・頸部疾患	二宮
5	各論：胸壁・呼吸器疾患①	二宮
6	各論：胸壁・呼吸器疾患②	二宮
7	各論：胸壁・呼吸器疾患③	二宮
8	各論：心臓・脈管疾患①	二宮
9	各論：心臓・脈管疾患②	二宮
10	各論：心臓・脈管疾患③	二宮
11	各論：乳腺疾患	二宮
12	各論：腹部外科疾患①	二宮
13	各論：腹部外科疾患②	二宮
14	各論：腹部外科疾患③	二宮
15	各論：まとめ	二宮
16	定期試験	二宮

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「外科学概論」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： リハビリテーション医学（前期）

授業形態：講義

担当教員： 二宮 宏二
通年2単位

【授業概要】 リハビリテーション医学の総論を学ぶ。

【到達目標】 リハビリテーション医学の理念を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	リハビリテーションの概念と歴史、リハビリテーション医学	二宮
2	リハビリテーション医学の基礎医学：A.運動学と機能解剖	二宮
3	リハビリテーション医学の基礎医学：B.障害学、C.治療学	二宮
4	リハビリテーション医学の評価と診断：A.患者のとらえ方、B.身体計測	二宮
5	リハビリテーション医学の評価と診断：C.関節可動域測定法1	二宮
6	リハビリテーション医学の評価と診断：C.関節可動域測定法2	二宮
7	リハビリテーション医学の評価と診断：D.徒手筋力テスト	二宮
8	リハビリテーション医学の評価と診断：E.中枢性運動障害の評価法、F.痙縮の評価法、G.小児運動発達の評価法	二宮
9	リハビリテーション医学の評価と診断：H.協調性テスト、I.失認と失行の評価法、J.心理評価	二宮
10	リハビリテーション医学の評価と診断：K.日常生活動作の評価、L.電気生理学的診断法	二宮
11	リハビリテーション医学の評価と診断：M.画像診断	二宮
12	リハビリテーションの治療：A.理学療法	二宮
13	リハビリテーションの治療：B.作業療法	二宮
14	リハビリテーションの治療：C.補装具	二宮
15	リハビリテーションの治療：D.言語治療	二宮
16	定期試験	二宮

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「リハビリテーション医学」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： リハビリテーション医学（後期）

授業形態：講義

担当教員： 二宮 宏二

【授業概要】 リハビリテーション医学の各論を学ぶ。

【到達目標】 リハビリテーション医学の実践を理解する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	リハビリテーション医学と関連職種（その1）	二宮
2	リハビリテーション医学と関連職種（その2）	二宮
3	リハビリテーションの実践：A.脳卒中（その1）	二宮
4	リハビリテーションの実践：A.脳卒中（その2）	二宮
5	リハビリテーションの実践：B.脊髄損傷	二宮
6	リハビリテーションの実践：C.小児疾患	二宮
7	リハビリテーションの実践：D.切断	二宮
8	リハビリテーションの実践：E.末梢神経障害	二宮
9	リハビリテーションの実践：F.関節リウマチ	二宮
10	リハビリテーションの実践：G.整形外科疾患	二宮
11	リハビリテーションの実践：H.心疾患	二宮
12	リハビリテーションの実践：I.呼吸器疾患	二宮
13	リハビリテーションの実践：J.老人のリハビリテーション	二宮
14	リハビリテーションと福祉	二宮
15	まとめ	二宮
16	定期試験	二宮

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「リハビリテーション医学」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 柔道Ⅱ（前期）

授業形態：実技

担当教員：附田 拓也
通年2単位

【授業概要】 柔道の基礎を学ぶ。3年次の『認定実技審査』に向けての準備。

【到達目標】 柔道により、柔道整復の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】浮腰①	附田
2	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】浮腰②	附田
3	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】浮腰③	附田
4	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】浮腰④	附田
5	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】払腰①	附田
6	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】払腰②	附田
7	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】払腰③	附田
8	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】払腰④	附田
9	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】釣込腰①	附田
10	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】釣込腰②	附田
11	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】釣込腰③	附田
12	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【腰技】釣込腰④	附田
13	準備運動 礼法 前方回転受身 投の形【手技】【腰技】復習①	附田
14	準備運動 礼法 前方回転受身 投の形【手技】【腰技】復習②	附田
15	まとめ	附田
16	定期試験（実技・筆記試験）	附田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する動画（画像など）を見ておくこと。（約30分）
復習：授業内容を整理・理解し、教科書や資料を見ておくこと。（約30分）

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 定期試験（実技70%・筆記試験30%）

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 柔道Ⅱ（後期）

授業形態：実技

担当教員：附田 拓也

【授業概要】 柔道の基礎を学ぶ。3年次の『認定実技審査』に向けての準備。

【到達目標】 柔道により、柔道整復の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】送足払①	附田
2	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】送足払②	附田
3	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】支釣込足①	附田
4	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】支釣込足②	附田
5	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】支釣込足③	附田
6	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】支釣込足④	附田
7	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】内股①	附田
8	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】内股②	附田
9	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】内股③	附田
10	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【足技】内股④	附田
11	準備運動 礼法 前回り受身 打込み 投の形【手技】肩車①	附田
12	準備運動 実技認定審査対策（模擬練習⇒礼法、前回り受身、【手技】【腰技】【足技】）①	附田
13	準備運動 実技認定審査対策（模擬練習⇒礼法、前回り受身、【手技】【腰技】【足技】）②	附田
14	準備運動 実技認定審査対策（模擬練習⇒礼法、前回り受身、【手技】【腰技】【足技】）③	附田
15	まとめ	附田
16	定期試験（実技・筆記試験）	附田

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する動画（画像など）を見ておくこと。（約30分）
復習：授業内容を整理・理解し、教科書や資料を見ておくこと。（約30分）

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 定期試験（実技70%・筆記試験30%）

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床柔道整復学Ⅰ（前期）

授業形態：講義

担当教員：

中村 大隆
通年4単位

【授業概要】 柔道整復学のうち骨折について学び、各部位ごとの骨折の特徴を理解する。

【到達目標】 講義の中で可能な限り基礎知識の習熟度をあげる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	A鎖骨・B肩甲骨骨折	中村
2	C.上腕骨近位端部 D.上腕骨骨幹部骨折	中村
3	E.上腕骨顆上・F.上腕骨顆部骨折	中村
4	G1.前腕骨近位端骨折 J2.胸部骨折	中村
5	G前腕骨近位端部・骨幹部骨折①	中村
6	G前腕骨近位端部・骨幹部骨折②	中村
7	G前腕骨近位端部・骨幹部骨折③	中村
8	G前腕骨近位端部・骨幹部骨折④	中村
9	G前腕骨近位端部・骨幹部骨折⑤	中村
10	G前腕骨近位端部・骨幹部骨折⑥	中村
11	H前腕骨遠位端部骨折①	中村
12	H前腕骨遠位端部骨折②	中村
13	H前腕骨遠位端部骨折③	中村
14	H前腕骨遠位端部骨折④	中村
15	H前腕骨遠位端部骨折⑤	中村
16	I手部骨折①	中村
17	I手部骨折②	中村
18	I手部骨折③	中村
19	I手部骨折④	中村
20	I手部骨折⑤	中村
21	I手部骨折⑥	中村
22	I手部骨折⑦	中村
23	I手部骨折⑧	中村
24	I手部骨折⑨	中村
25	I手部骨折⑩	中村
26	I手部骨折⑪	中村
27	I手部骨折⑫	中村
28	I手部骨折⑬	中村
29	J頭部・顔面・胸部・脊椎骨折①	中村
30	J頭部・顔面・胸部・脊椎骨折②	中村
31	定期試験（A～I）	中村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約2時間）
復習：授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約2時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」（南江堂）
「柔道整復学 実技編」（南江堂）・プロメテウス（医学書院）
「施術の適応と医用画像の理解」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床柔道整復学Ⅰ（後期）

授業形態：講義

担当教員： 中村 大隆

【授業概要】 柔道整復学のうち骨折について学び、各部位ごとの骨折の特徴を理解する。

【到達目標】 講義の中で可能な限り基礎知識の習熟度をあげる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	K.骨盤・L大腿骨頸部骨折	中村
2	M.大腿骨骨幹部・N膝蓋骨骨折	中村
3	O下腿骨骨折①	中村
4	O下腿骨骨折②	中村
5	O下腿骨骨折③	中村
6	O下腿骨骨折④	中村
7	O下腿骨骨折⑤	中村
8	O下腿骨骨折⑥	中村
9	P足・足指骨骨折①	中村
10	P足・足指骨骨折②	中村
11	P足・足指骨骨折③	中村
12	P足・足指骨骨折④	中村
13	P足・足指骨骨折⑤	中村
14	P足・足指骨骨折⑥	中村
15	P足・足指骨骨折⑦	中村
16	P足・足指骨骨折⑧	中村
17	復習	中村
18	復習	中村
19	復習	中村
20	復習	中村
21	復習	中村
22	復習	中村
23	復習	中村
24	復習	中村
25	復習	中村
26	復習	中村
27	復習	中村
28	復習	中村
29	復習	中村
30	復習	中村
31	定期試験	中村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約2時間）
復習：授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約2時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」（南江堂）
「柔道整復学 実技編」（南江堂）・プロメテウス（医学書院）
「施術の適応と医用画像の理解」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床柔道整復学Ⅱ（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 三宅 史晃
通年2単位

【授業概要】 各論・脱臼理論：総論、骨折、解剖学の知識をベースに課題に取り組む。臨床で多く見られる肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘内障等は画像、X線像より整復、固定、予後の習得に努める。また最近の知見、論文を紹介し学習する。

【到達目標】 理論だけでなく、実技を体得し、各自が柔道整復師としての必須の素養を身につけることを目指す。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	鎖骨脱臼① 原因、分類、発生機序	三宅
2	鎖骨脱臼② 症状、整復法、固定	三宅
3	鎖骨脱臼③ 合併症、治療、予後	三宅
4	肩関節脱臼①	三宅
5	肩関節脱臼②	三宅
6	肩関節脱臼③	三宅
7	肘関節脱臼①	三宅
8	肘関節脱臼②	三宅
9	肘内障	三宅
10	遠位橈尺関節脱臼	三宅
11	月状骨脱臼	三宅
12	手根中手関節脱臼	三宅
13	中手指節関節脱臼	三宅
14	指節関節脱臼	三宅
15	前期総括復習	三宅
16	定期試験	三宅

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編 実技編」（南江堂） 「施術の適応と医用画像の理解」（南江堂）

【参考書名】 配布資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上

科目名： 臨床柔道整復学Ⅱ（後期）

授業形態： 講義

担当教員： 三宅 史晃

【授業概要】 各論・脱臼、下肢軟部組織損傷：総論、骨折、解剖学の知識をベースに課題に取り組む。
臨床例の画像やテーピング実技により学習する。
国家試験の対策を配布資料、小問と解説により知識、考え方を深める。

【到達目標】 柔道整復師としての能力、評価力、説明力を育むことを目標とする。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	脊柱の脱臼	三宅
2	顎関節脱臼	三宅
3	股関節脱臼①	三宅
4	股関節脱臼②	三宅
5	膝蓋骨脱臼	三宅
6	膝関節脱臼①	三宅
7	膝関節脱臼②	三宅
8	足部の脱臼 足指の脱臼	三宅
9	股関節の軟部組織損傷①	三宅
10	股関節の軟部組織損傷②	三宅
11	大腿部の軟部組織損傷	三宅
12	膝関節部の軟部組織損傷①	三宅
13	膝関節部の軟部組織損傷②	三宅
14	下腿部の軟部組織損傷	三宅
15	後期総括復習	三宅
16	定期試験	三宅

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編 実技編」（南江堂） 「施術の適応と医用画像の理解」（南江堂）

【参考書名】 配布資料

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上

科目名： 臨床柔道整復学Ⅲ（前期）

授業形態：講義

担当教員： 竹山 理
通年2単位

【授業概要】 1年次で学び、習得した柔道整復学総論をもとに、臨床柔道整復学Ⅲでは関節損傷や筋損傷、腱、靱帯損傷、さらには神経損傷など人体の軟部組織損傷を身体の部位ごとにさらに理論的に学習する。前期では頭部から体幹、上肢までを学ぶ。

【到達目標】 臨床柔道整復学では主に人体の軟部組織損傷を学習し、柔道整復学の知識をより深め、認定実技審査や国家試験の知識としてはもちろん、卒業後の臨床の現場でも役立ててほしい。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	軟部組織損傷【A.顎関節損傷】①	竹山
2	軟部組織損傷【D.肩部・上腕部損傷】①	竹山
3	軟部組織損傷【D.肩部・上腕部損傷】②	竹山
4	軟部組織損傷【D.肩部・上腕部損傷】③	竹山
5	軟部組織損傷【J.大腿部損傷】①	竹山
6	軟部組織損傷【K.膝関節損傷】①	竹山
7	軟部組織損傷【K.膝関節損傷】②	竹山
8	軟部組織損傷【K.膝関節損傷】③	竹山
9	軟部組織損傷【K.膝関節損傷】④	竹山
10	軟部組織損傷【L.下腿部損傷】①	竹山
11	軟部組織損傷【M.アキレス腱損傷】①	竹山
12	軟部組織損傷【M.アキレス腱損傷】②	竹山
13	軟部組織損傷【N.足関節損傷】①	竹山
14	軟部組織損傷【N.足関節損傷】②	竹山
15	まとめ	竹山
16	定期試験	竹山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約1時間）
復習：授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」（南江堂）「柔道整復学 実技編」（南江堂）「施術の適応と医用画像の理解」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床柔道整復学Ⅲ（後期）

授業形態：講義

担当教員： 竹山 理

【授業概要】 1年次で学び、習得した柔道整復学総論をもとに、臨床柔道整復学Ⅲでは関節損傷や筋損傷、腱、靱帯損傷、さらには神経損傷など人体の軟部組織損傷を身体の部位ごとにさらに理論的に学習する。後期では下肢及び骨端症について学ぶ。

【到達目標】 臨床柔道整復学では主に人体の軟部組織損傷を学習し、柔道整復学の知識をより深め、認定実技審査や国家試験の知識としてはもちろん、卒業後の臨床の現場でも役立つ知識を身につける。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1	軟部組織損傷【B.頭部・頭部損傷】①	竹山
2	軟部組織損傷【B.頭部・頭部損傷】②	竹山
3	軟部組織損傷【C.腰部損傷】①	竹山
4	軟部組織損傷【C.腰部損傷】②	竹山
5	軟部組織損傷【E.肘部・前腕部損傷】①	竹山
6	軟部組織損傷【F.手関節・手指部損傷】①	竹山
7	軟部組織損傷【F.手関節・手指部損傷】②	竹山
8	軟部組織損傷【G.上肢：神経性障害】①	竹山
9	軟部組織損傷【G.上肢：神経性障害】②	竹山
10	軟部組織損傷【G.上肢：神経性障害】③	竹山
11	軟部組織損傷【H.股関節損傷】①	竹山
12	軟部組織損傷【O.足部・足趾部損傷】①	竹山
13	軟部組織損傷【P.下腿：神経性障害】①	竹山
14	軟部組織損傷【Q.骨端症】①	竹山
15	まとめ	竹山
16	定期試験	竹山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約1時間）
復習：授業内容を教科書・資料などを見直ししながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」（南江堂）「柔道整復学 実技編」（南江堂）「施術の適応と医用画像の理解」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 柔道整復実技Ⅲ（前期）

授業形態：実技

担当教員：中村大隆・竹山理

通年4単位

【授業概要】 上肢・下肢外傷に対する診察と検査法、固定法を学ぶ。

【到達目標】 認定実技審査に準じ、上肢・下肢の軟部組織損傷の問診、診察、テスト法、固定法などの習得を目標とする。

【授業の進め方】

★固定具表示 ◎=全員分あり △=2人1組あり

回数	授 業 内 容	担当教員
1	腓骨骨折の診察と検査法①	竹山
2	腓骨骨折の診察と検査法②	竹山
3	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察と検査法①	竹山
4	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察と検査法②	竹山
5	ハムストリング損傷の診察と検査法①	竹山
6	ハムストリング損傷の診察と検査法②	竹山
7	大腿四頭筋打撲の診察と検査法①	竹山
8	大腿四頭筋打撲の診察と検査法②	竹山
9	膝関節側副靭帯損傷の診察と検査法①	竹山
10	膝関節側副靭帯損傷の診察と検査法②	竹山
11	膝関節内側側副靭帯損傷のXサポートテープ固定	竹山
12	膝関節十字靭帯損傷の診察と検査法①	竹山
13	膝関節十字靭帯損傷の診察と検査法②	竹山
14	膝関節半月板損傷の診察と検査法①	竹山
15	膝関節半月板損傷の診察と検査法②	竹山
16	下腿三頭筋損傷の診察と検査法①	竹山
17	下腿三頭筋損傷の診察と検査法②	竹山
18	アキレス腱断裂の固定法 ★固定具：△	竹山
19	足関節外側靭帯損傷の診察と検査法①	竹山
20	足関節外側靭帯損傷の診察と検査法②	竹山
21	足関節外側靭帯損傷の固定法（局所副子固定） ★固定具：◎	竹山
22	足関節外側靭帯損傷のテーピング固定 バスケットウィーブ	竹山
23	足関節外側靭帯損傷のテーピング固定 フィギュアエイト・ヒールロック	竹山
24	軟部組織損傷の復習	竹山
25	軟部組織損傷の復習	竹山
26	鎖骨骨折の整復法①	中村
27	鎖骨骨折の整復法②	中村
28	鎖骨骨折の固定法（リング固定法）	中村
29	上腕骨外科頸外転型骨折の整復法①	中村
30	上腕骨外科頸外転型骨折の整復法②	中村
31	定期試験	中村・竹山

【授業外学修】 予習：施術者に相応しい身だしなみにて受講すること。
各回授業内容の予習（発生機序・転移・症状等）を教科書や資料にて確認し受講すること（約1時間）
復習：整復・固定法を家族や友人へ反復練習し、2・3年次の臨床実習で実践できるよう習得すること（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「柔道整復学 実技編」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%（軟部組織損傷100%）

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 柔道整復実技Ⅲ（後期）

授業形態：実技

担当教員： 中村大隆・附田拓也

【授業概要】 上肢・下肢外傷に対する診察と検査法、固定法を学ぶ。

【到達目標】 認定実技審査基準に準じ、診察、整復法ならびに固定法を1年次で作成した固定具を用い習得を目標とする。

【授業の進め方】

★固定具表示 ◎=全員分あり △=2人1組あり

回数	授 業 内 容	担当教員
1	上腕骨骨幹部骨折（三角筋付着部より近位の骨折）の固定法①	中村
2	上腕骨骨幹部骨折（三角筋付着部より近位の骨折）の固定法②	中村
3	コーレス骨折の整復法① ★固定具：◎	中村
4	コーレス骨折の整復法②	中村
5	コーレス骨折の固定法①	中村
6	手部第5指中手骨頸部骨折の固定法（包帯固定学実施済：小テスト実施） ★固定具：△	中村
7	肋骨骨折の固定法 ★固定具：△	中村
8	下腿骨骨幹部骨折の固定法	中村
9	骨折の復習①	中村
10	骨折の復習② ★固定具：副子◎ シーネ△	中村
11	中間試験（骨折の整復・固定）① ★固定具：△	中村
12	中間試験（骨折の整復・固定）② ★固定具：◎	中村
13	肩鎖関節脱臼の整復法① ★固定具：△	附田
14	肩鎖関節脱臼の整復法②	附田
15	肩鎖関節脱臼の固定法	附田
16	肩関節脱臼の整復法①	附田
17	肩関節脱臼の整復法②	附田
18	肩関節脱臼の固定法①（包帯固定学実施済：小テスト実施）	附田
19	肘関節脱臼の整復法	附田
20	肘関節脱臼の固定法 ★固定具：◎	附田
21	肘内障の整復法①	附田
22	肘内障の整復法②	附田
23	手部第2指PIP関節背側脱臼の固定法（包帯固定学実施済：小テスト実施） ★固定具：◎	附田
24	脱臼の復習①	附田
25	脱臼の復習② ★固定具：△	附田
26	中間試験（脱臼の整復・固定）①	附田
27	中間試験（脱臼の整復・固定）②	附田
28	総合復習（骨折・脱臼・軟部組織損傷）①	附田
29	総合復習（骨折・脱臼・軟部組織損傷）②	附田
30	総合復習（骨折・脱臼・軟部組織損傷）③	附田
31	定期試験	中村・附田

【授業外学修】 予習：施術者に相応しい身だしなみにて受講すること。

各回授業内容の予習（発生機序・転移・症状等）を教科書や資料にて確認し受講すること（約1時間）

復習：検査・固定法を家族や友人へ反復練習し、2・3年次の臨床実習で実践できるよう習得すること（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」（南江堂）

【参考書名】 「柔道整復学 実技編」（南江堂）

【評価基準】 定期試験100%（骨折40%、脱臼40%、軟損20%）

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床実習（前期） 授業形態：実習 担当教員： 中村大隆・竹山・附田拓也
通年3単位

- 【授業概要】 臨床体験や臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度や習慣、ならびに実践的能力を習得する。
また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。
- 【到達目標】 施術所における施術の一連の流れを理解し、実践する。
患者に対して適切な態度で接する。
問診表や施術録を作成できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1～3	整骨院実習：臨床実習について	中村・竹山・附田
4～6	整骨院実習	中村・竹山・附田
7～9	整骨院実習	中村・竹山・附田
10～12	整骨院実習	中村・竹山・附田
13～15	整骨院実習	中村・竹山・附田
16～18	整骨院実習	中村・竹山・附田
19～21	整骨院実習	中村・竹山・附田
22～24	整骨院実習	中村・竹山・附田
25～27	整骨院実習	中村・竹山・附田
28～30	整骨院実習	中村・竹山・附田
31～33	整骨院実習	中村・竹山・附田
34～36	整骨院実習	中村・竹山・附田
37～39	整骨院実習	中村・竹山・附田
40～42	整骨院実習	中村・竹山・附田
43～45	整骨院実習	中村・竹山・附田

- 【授業外学修】 予習：実習にふさわしい身だしなみを整える。
医療面接の意義を確認し、必要な身体診察法による所見が取れるよう準備する。（30分）
復習：実習課題を記入し提出する。不明な点は質問し、解決する。（1時間）
「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「柔道整復学 実技編」（南江堂）

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

【実務経験】

実習時評価50% 実習課題（デイリーノート・症例報告）50%
病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名： 臨床実習（後期） 授業形態：実習 担当教員： 中村大隆・竹山理・附田拓也

- 【授業概要】 臨床体験や臨床見学を通して、臨床に携わる者としての態度や習慣、ならびに実践的能力を習得する。
また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。
- 【到達目標】 施術所における施術の一連の流れを理解し、実践する。
患者に対して適切な態度で接する。
問診表や施術録を作成できる。

【授業の進め方】

回数	授 業 内 容	担当教員
1～3	整骨院実習：臨床実習について	中村・竹山・附田
4～6	整骨院実習	中村・竹山・附田
7～9	整骨院実習	中村・竹山・附田
10～12	整骨院実習	中村・竹山・附田
13～15	整骨院実習	中村・竹山・附田
16～18	整骨院実習	中村・竹山・附田
19～21	整骨院実習	中村・竹山・附田
22～24	整骨院実習	中村・竹山・附田
25～27	整骨院実習	中村・竹山・附田
28～30	整骨院実習	中村・竹山・附田
31～33	整骨院実習	中村・竹山・附田
34～36	整骨院実習	中村・竹山・附田
37～39	整骨院実習	中村・竹山・附田
40～42	整骨院実習	中村・竹山・附田
43～45	整骨院実習	中村・竹山・附田

- 【授業外学修】 予習：実習にふさわしい身だしなみを整える。
医療面接の意義を確認し、必要な身体診察法による所見が取れるよう準備する。（30分）
復習：実習課題を記入し提出する。不明な点は質問し、解決する。（1時間）
「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「柔道整復学 実技編」（南江堂）

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

【実務経験】

実習時評価50% 実習課題（デイリーノート・症例報告）50%
病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加